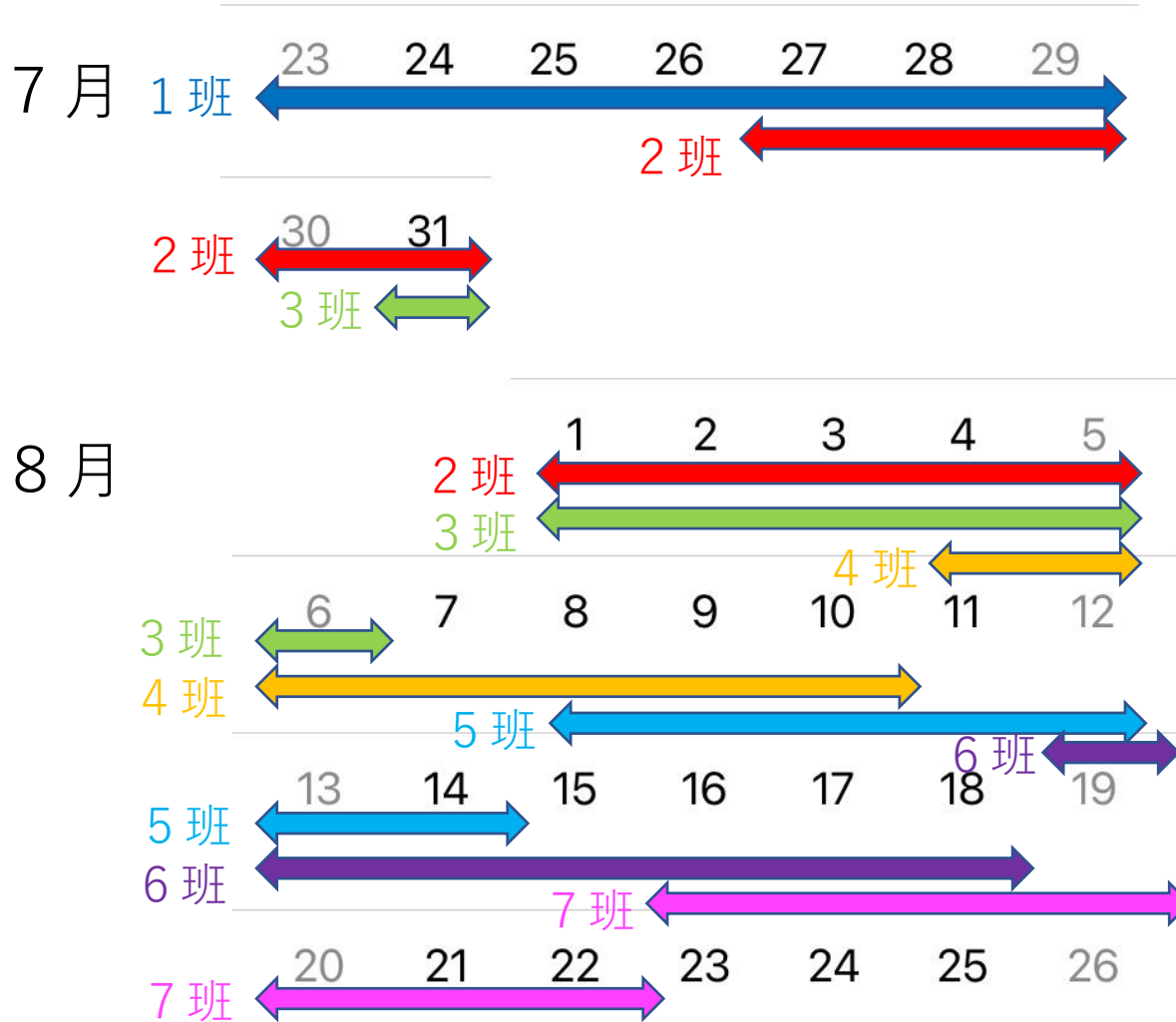
A scenic landscape featuring a range of mountains in the background under a cloudy sky. In the foreground, there are dense green trees and a wooden railing. A body of water in the lower half of the image reflects the surrounding trees and mountains.

三俣診療班における
診療活動の向上を目指して
～中間報告～

目次

- 1.今年度の活動実績について
- 2.診療所の意義
- 3.診療班での学生の役割について
- 4.患者さんや山荘スタッフからの声

1.今年度の活動実績について



・左に示すスケジュール通り、活動を行った

・72名の登山者の方が利用
来所理由の内訳

最多：外傷（転倒による切り傷や打撲）
その他：虫刺され、高山病、消化不良等

2. 診療所の意義

- ・ 三俣診療所は北アルプス最奥の診療所であり、一番近くの双六診療所との距離もおおよそ4キロ（歩いて2～3時間ほど）離れている
→三俣診療所が運営されることで「アルプス奥地でも医療が受けられる」という安心感を登山者に与えることができる
- ・ 香川・岡山両大学のOB・OGが中心となっている医療従事者・両大学学生共に、ボランティアとして参加している（診療費は無料）
- ・ 開設している間は医師不在期間がない日程で診療活動を行っている



3. 診療班での学生の役割について

- 患者さんが診療所に来たら、まず学生が予診をとった
→そのあと医療従事者が診察した
- 医療従事者の診察の補助を行なった
- 周辺の山荘に新しい器材や薬剤を届けに行った



山岳保険には入っていますか？
いつから痛みますか？
どのような痛みですか？



4.患者さんや山荘スタッフからの声

- ・ 転倒して目の上を岩にぶつけ、あざができていた患者さん
「大きな異常がないと言われたことで明日からも安心して登山を続けることができます。遠い四国からわざわざ来てくれてありがとうございます。」
- ・ 転倒して頭を切ってしまい、出血しながらやって来た患者さん
「縫合も無償でやってくれるんですね！本当に助かります。」
- ・ 三俣山荘のスタッフの方
「診療所の運営は、山のライフラインを維持するために不可欠なものの1つだと再認識しました。」

